

令和2年度兵庫県立西宮今津高等学校 学校評価結果

1 学校運営の目標・方針

「自律」「協同」「創造」の精神を培い、自らの将来に向かって果敢に挑戦し、社会に貢献できる人材を育成する。
 ○生涯を通じて学ぶ楽しさと学び続ける意欲・能力を育成する。
 ○基礎・基本を確実に定着させ、社会の変化に対応し、「生きる力」を育む。
 ○生命を尊重する心、他を思いやる心など、心身を鍛える態度を育成し、調和のとれた人格形成を目指す。

2 本年度の重点目標

○生徒、教職員が一致協力して、その基盤である校訓の具現化を図り、あらゆる教育活動を通じて活力ある校風づくりをめざす。
 ○自己の在り方生き方について考えさせ、職業選択に必要な能力と態度を養うとともに、社会人として必要なコミュニケーション能力や課題解決能力等を育成するためのキャリア教育を推進する。
 ○生命と人権を大切に、他者を尊重するとともに、異なる文化や価値観を理解し、多様な人々と共に生きる心を育てる教育を推進する。また、基本的なルールを遵守し、役割や責任をもってよりよい社会づくりに向けて主体的に行動する力を育成する。
 ○保護者や地域社会と一層の連携を図り、地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりを推進する。
 ○教職員が使命感を持ち、資質向上を図るため、体系的・組織的な研修を推進する。また、全教職員が協力して教育活動に取り組むことのできる体制の構築をめざす。
 ○教職員が心身ともに健康で、生徒と向き合う時間をしっかり確保し、教育活動をさらに充実させるために業務改善及び勤務時間の適正化に取り組む。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

・学校評価について、生徒、保護者、教員の3者よりアンケートをとり、その結果を考えて改善策を検討しており、実施方法について、適切であると思われる。
 ・今回はコロナ禍の中、学校を訪問して高見を見ることができず残念だった。同じ質問項目を毎年実施しているので、2、3年次の1、2年次の時の評価も見てみたい。

5 総合的な学校関係者評価

・今年度は、コロナ禍の中で例年通りの教育活動を行うのが難しい中、皆さんがよく頑張られていることが、評価より読み取れる。特に生徒評価は昨年と比べ、全項目で上昇しており、生徒は高校生活を再認識し、しっかりと取り組めたことがわかる。
 ・残念なのは、保護者評価の一部項目の低下である(No1、20～22)。コロナ禍の中、保護者とのように情報を共有するのが、課題であると思われる。
 ・進路に関しては、大学や短大以外の進路指導に対してもう少し、親身になってほしいという保護者の意見を聞いた。学校評価としては、中学生が重視する進学がと思うかもしれないが、生徒・担任・保護者の3者が次のステップに納得いくことが新入生に対してロコミとして広がるのではないかとと思う。
 ・「学校に来るのが楽しい」がA評価になるように期待したい。また、通学中に携帯を触りながら自転車に乗っている生徒を見かける。交通事故には特に自分も他人も巻き込まない様に注意してほしい。
 ・総合学科の魅力をももう少しアピールしてほしい。また、甘く感じる。体育大会の開催はとても良かった。

【生徒・保護者・教員】

A: 5.0～4.2
 B: 4.1～3.3
 C: 3.2～2.4
 D: 2.3～0

【総合評価】

A: 5.0～4.0
 B: 3.9～3.5
 C: 3.4～3.0
 D: 2.9～0

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

観点	No.	質問項目	生徒評価		保護者評価		教員評価	総合評価	担当	評価	改善策など
			3.9	B	2.9	C					
学校生活	1	本校の校訓を知っている。	3.9	B	2.9	C		B	総務	(総務)今年度は式典で校歌斉唱をする機会がなく、校歌の歌詞に入っている校訓を記憶に定着させることが難しかったと思われる。	(総務)集会の際、言葉だけでなく、学校生活に関連する形で内容に沿った話をするなどの工夫で記憶に残りやすくなると考えられる。
	2	学校に来るのが楽しい。	4.0	B	4.2	A		A	年次	(1年次)コロナ禍で、新学期スタート、行事などに影響が出た割には、楽しく前向きに学校生活に取り組んでいる生徒が多いと思います。 (2年次)修学旅行が実施できたことは良かった。日々の生活で、成長している実感をもって欲しい。 (3年次)緊急事態宣言にともない、学校が休業になり、これまで当たり前とっていたことが当たり前でなくなったことで、さまざまな気づきがあったのではないかと。	(1年次)欠席が多くなっている生徒も多く見られるので、面談等個々に話す機会を更に増やし、個々への丁寧な対応を増やしていく。 (2年次)日々の授業を大切にしている意識を持ち、行事に主体性をもって取り組めるように工夫する。 (3年次)特になし
	3	学校での出来事を家庭でよく話をする。	3.8	B	4.1	B		B	年次	(1年次)三者面談などでの印象では、よく話す家庭が多い印象であるが、どのクラスにも家庭環境が、それほど良好ではない所が数件はある。 (2年次)どちらかといえば、家でよく話す生徒が多い印象である。 (3年次)進路の話題が多くなるので必然的に話す機会が増えるのではないかとと思われる。	(1年次)年次通信、保護者会、面談・電話対応などで、保護者との相互理解を深めていきたい。 (2年次)年次通信等で行事や進路などの話題を提供していきたい。 (3年次)特になし

	4	年次通信、PTA広報誌など学校からの配布物を保護者に渡している。	3.9	B	3.9	B	3.7	B	B	年次	(1年次)必ず配布物は渡すようには指導している。 (2年次)渡すように伝えている。 (3年次)家庭環境によるのではないか。	(1年次)紙の配布物の指導は引き続き行っが、オンラインでのデータ配布をもっと充実させていった方が良いと思う。 (2年次)引き続き、年次通信を毎月発行していく。 (3年次)年に1度、保護者会の際に、確認はしているが、今年度は中止しているため、今年度に限っては仕方がない。来年度以降も、保護者会をお願いしていくしかない。
教科指導	5	学校はわかりやすい授業を行っており、基礎学力が定着してきた。	3.5	B	3.4	B	4.1	B	B	教務	(教務)生徒・保護者と教員で大きな乖離がみられる。	(教務)主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行うために、授業公開を充実させる。
	6	家庭学習の時間が昨年より増えている。 (H29家庭学習を2時間以上確保できている)	3.6	B	3.5	B	3.6	B	B	教務年次	(教務)学習習慣が身につけていない生徒が多い。 (1年次)生徒本人と家庭での環境によって、差が大きいと思う。 (2年次)生徒による意識の差が大きい。 (3年次)ほとんどの生徒が、3年次になって学習時間が増えたのではないかと思われる。	(教務)授業と家庭学習をつなげるために、授業の始め方や終わり方を工夫するなどの授業改善を推進する。 (1年次)週末課題への目的意識をもっと高めて、予習・復習への取り組みを徹底したい。 (2年次)具体的にどの学習が必要なのか明確に理解させたい。また、生徒自身がお互い進路に対する意識を高め合える環境をつくりたい。 (3年次)1,2年次では、少なくとも国語、英語、数学の3教科は、適度な宿題を出して、家庭学習を促していくべきではないだろうか。
	7	学習意欲が高まっている。	3.5	B	3.5	B						
	8	講習・補習・個別指導などを積極的に受けている。	3.0	C	2.9	C	3.8	B	C	教務年次	(教務)生徒・保護者と教員で大きな乖離がみられる。 (1年次)週3回、国英数の小テスト、夏休み補習を実施している。まだ1年次なので放課後の補習は行っていない。質問があれば個別に対応はしている。 (2年次)放課後の小テストなどを実施している。 (3年次)今年度は、コロナ禍の影響で評価は難しい。	(教務)講習・補習に関して、生徒の進路目標や興味・関心に応じた設定ができているか常に検討していく。 (1年次)2年次へ向けて、進路指導をしっかり行いたい。 (2年次)3年次の入試に向けて、自分に合った学習スタイルと自学自習の習慣を確立させたい。 (3年次)週2回も7限まであり、6限の日は会議で埋まっている以上、放課後の講習は不可能であるため、改善するとしたら、教育課程を見直すしかない。
	9	部活動と家庭学習の両立ができている。	3.4	C	3.5	B	3.7	B	B	生指年次	(生指)時間的には、十分確保できる環境にはある。 (1年次)本人の意識次第だと思う。 (2年次)本人の意識次第である。家庭学習の重要さは分かっている。 (3年次)部活動をしていてもしっかり学習するものもいれば、部に所属していなくてもしない生徒は少ない。	(生指)本人の自覚の問題が大きい。部活動顧問による、注意喚起を高める。 (1年次)面談、集会などを通じて、時間の管理・有効活用などを徹底させていきたい。 (2年次)自己管理をして、時間を有効活用できるように面談等を通してアドバイスし応援する。 (3年次)学校の基本は授業であるということ各部で徹底する。

進路指導	10	多様な選択科目の中から自分の進路・適性に合ったものが選択できている。	4.0	B	4.1	B	3.9	A	B	教務	(教務)多くの科目が設置され、多様な選択ができることが、肯定的に捉えられている。	(教務)生徒の進路目標、興味・関心や時代の変化に対応した科目が設置できているか、常に検討していく。
	11	進路に関する適切な情報が提供されている。	3.9	B	3.5	B	3.8	B	B	進路	(進路)特に今年度から新大学入試が始まり、必要な進路情報は概ね生徒に伝えられている。	(進路)進路指導部としては、①年次を通じた情報提供、②進路指導室における生徒への直接の情報提供、が考えられるので、進路指導室への生徒誘導と、担当職員の常駐体制を充実させる。
	12	模擬試験等を継続的に受け、事後の学習に生かしている。	3.4	B	3.3	B	3.7	B	B	進路年次	(進路)多様な進路希望生徒がおり、模試に対する意識の差があると思われる。 (1年次)1年では3回の模試を実施。意欲的に取り組んでいる生徒と、そうでない生徒の差が多い。 (2年次)学期ごとに模試を実施している。また、事前指導のプリントなども希望者に配布している。 (3年次)1, 2年次では、強制的に受けさせられていると認識している生徒が少なからずいると思われるが、3年次になって多くの生徒は、進路を見据えて積極的に受験していたように思える。	(進路)大学・短大受験層に対する手厚い意識づけ・指導を行う。 (1年次)模試への事前指導を深め、取り組みの姿勢を向上させる。また模試返却後の指導を徹底し、復習を意欲的にさせる。 (2年次)個別指導や授業を通じて、模試に対する意識を高める。 (3年次)1, 2年次では、事前事後指導の時間を十分にとる必要がある。
	13	進路校外学習などを通して、職業観・勤労観が身に付いた。	3.7	B	3.2	C	4.1	A	B	推進	(推進)今年度は、2年次は7月に校外学習、10月には進路校外学習を実施したが、1年次は、校内で7月分野別説明会、10月領域別学習を実施した。その影響か保護者評価が低くなっている。1年次は校内での実施となったが、分野別説明会では大学等の専門分野について、領域別説明会では企業の方を招いて、職業観・勤労観を得る機会を設けた。	(推進)今年度の校外学習は、実施が非常に難しかった。来年度も難しいと考えられるが、2年次の校外学習はフィールドワーク研修の側面もあるため、進路指導部や年次と連携を図りながら、訪問先を吟味したい。また、有意義な校外学習となるよう事前学習を今まで以上に充実させ、生徒がより主体的に学ぶ機会となるようにする。
	14	「産業社会と人間」「総合学習」「課題研究」など生き方について考える機会が多い。	3.9	B	3.6	B	4.2	A	B	推進	(推進)概ね良好であるが、総合三科目の学びは、総合学科の教育課程において根幹となるものであるため、より主体的な学びの機会となる必要がある。	(推進)総合三科目のねらいや本質について教師自身も十分に理解し、共通認識を持って授業の指導に当たることが大切である。これまでの取り組みを生かしながら、より深い学びとなるよう工夫していく必要がある。

生徒の自主性	15	総合学科での学習を通して、課題設定や課題解決の能力が伸長した。(H29「総合学習」や「課題研究」を通して、課題設定や課題解決の能力が伸長した。)	3.7	B	3.4	B	4.2	A	B	推進	(推進)1・2年次はグループで、3年次は個人で課題解決型の学習に取り組んでいる。着実に力がついていると考えるが、より積極的な取り組みが必要である。	(推進)各教科においても、それぞれの授業の中で、生徒に課題解決の成功体験を積み重ねさせる工夫をしていく必要がある。
	16	生徒会活動やホームルーム活動では主体的に活動している。	3.4	B	3.1	C	4.0	B	C	生指	(生指)学校の諸活動を見る機会がないため、保護者のポイントが低下したのではないかと。	(生指)来年度も不確定な部分が多い。少しでも準備の時間を確保し、生徒の主体的な取り組みを育てたい。
							3.3	B				
17	体育大会等の行事に積極的に取り組んでいる。	4.0	B	3.9	B	4.1	B	A	生指	(生指)生徒の評価は上昇。学校行事の中止が続いたこともあって、体育大会への意欲がより高まった。	(生指)制約が多い中、様々なアイデアを出して取り組んだので、この傾向を来年度も継続する。	
生活習慣	18	集会などを通して、学校や学年の生徒指導方針がよく説明されている。	3.8	B	3.2	C	4.1	B	B	生指	(生指)保護者の評価が低いのは、保護者会など、コロナの関係で制限があるからではないかと。	(生指)来年度も、制限が多いが、出来る範囲で説明したい。
	19	挨拶・時間厳守・携帯電話の使い方などの基本的な生活習慣が身に付いている。	4.2	A	3.8	B	3.8	B	B	生指	(生指)遅刻者などは減少傾向にあるので、よい傾向である。	(生指)引き続き、基本的な生活習慣の確立を呼び掛けていきたい。
人権	20	保健室・教育相談室など、悩み事を相談できる体制が整っている。または、親身になって相談に乗ってくれる先生がいる。	3.7	B	3.0	C	4.0	B	B	保健	(保健)保健室において様々な生徒たちの相談等で来室者数も多い。気になる生徒には、キャンパスカウンセラーと連絡を密にとっている。	(保健)カウンセリングマインド研修会を実施し、生徒たちの相談しやすいような雰囲気づくりに努め、保健室と年次との連携をさらに強化する。
	21	いじめのない学校づくりが進められている。	4.1	B	2.8	C	4.3	A	B	生指	(生指)生徒の評価が高く、アンケートや面談の実施などにより、未然防止、早期発見、対応に努めた成果がでた。	(生指)アンケートの持ち帰りなどをより徹底し、保護者への周知に努める。
	22	色々な授業や行事を通じて、命と人権を大切にする教育が行われている。	4.2	A	2.9	C	4.2	A	B	人権	(図書・人権)今年度は「障害者と健常者との共生について考える」というテーマで、11月12日に救世忍者乱丸さん(フリーランス女子プロレスラー)の講演を通して生きざまを学ぶと共に障害者と健常者との共生について考えた。また、各教科でも、教科書に沿って人権課題を適切に扱っている。尚、7月に行っている映画鑑賞はコロナ禍で中止した。3年次生には12月に労働学習をオンラインで実施した(3年次への労働者学習も3年目になった)。	(図書・人権)教材や指導方法について事前検討会を持ち、指導しやすいように修正などを協議し合えたことは大きな前進だと考える。そのためには、余裕をもって取り組めるように早期に計画を立てることが重要である。講演会については、実際に講演などを聴いた人から選定することが望ましいと考える。また、校外研修会の適度に活用するため、随時紹介していく。
新型コロナ対策	23	新型コロナウイルス感染症対策等について、マスク着用やうがい手洗い消毒など感染予防に取り組んでいる。	4.5	A	3.9	B	4.4	A	A	保健	(保健)新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルに基づき感染予防対策を徹底して実施した。	(保健)健康チェックなど呼びかけを強化し、よりいっそう感染予防の徹底に努める。
その他	24	(勤務時間の適正化)勤務時間の適正化を目指し、教職員一人一人が業務改善に取り組んでいる					3.3	B	B	教頭	<教頭>評価はBであり。昨年度から変化がない。日々の業務に追われている実態が評価に表れている。	<教頭>教員一人一人の意識改革を引き続き進める必要がある。定時退勤日、ノー部活動デー、ノー会議デーを学校挙げて推進し定着させる。